



学校便り

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> Eメール kanai-es@sado.ed.jp

佐渡市立金井小学校 平成29年7月10日 第4号

修学旅行からの学び ～ 学びのつながりとかかわり ～

校長 羽二生 裕



初夏の風が心地よく感じられる今日この頃です。各学年のプール学習が始まり、プールから子どもたちの元気な声が聞こえてきます。今年度も6年生は、一泊二日の会津若松方面への修学旅行に行ってきた。人はその時に「出会った人、読んだ本、見聞を広める旅行（現場体験）」によって、大きく成長すると言われていています。6年生の子どもたちや私にとっても大変有意義な修学旅行でした。

子どもたちは、鶴ヶ城や飯盛山で班別活動をしました。その際、各班で作成した佐渡市の観光パンフレット（総合で学習した相川金山のこと）を、旅先で出会った方々に説明をし手渡しました。その出会った方から、学校に心温まるお手紙が届きました。子どもたちにとって、大きな喜びと驚きがありました。お手紙の一部を紹介します。

6月15日、会津の鶴ヶ城で大切なパンフレットをいただき、ありがとうございます。私も佐渡には、2回ほど行きまして、おいしい魚を食べましたし、佐渡おけさの素晴らしさも見て来ました。もちろん、金山の金にもふれてとても楽しい旅行をしたことなど、今でもよく思い出します。この次は、6月の頃、カンゾウの花が咲く頃にでも、まだ行っていない所の旅行をしてみたいと、皆さんにお会いしてから思うようになりました。・・・皆さんのような素晴らしい子どもたちのいる島ですので、これから島の人達も楽しみだと、私も思いました。（以下略）

旅先での人との出会いの素晴らしさやかかわりを感じました。

また、「野口英世記念館」では、時間をたっぷり取ってあったので、子どもたちは映像や実物の展示コーナー、分かり易いパネル説明などを食い入るように見てメモを取っていました。今でも私の心に残っていることは『志を得ざれば 再びこの地を踏まず』という野口氏の言葉です。この言葉は、19歳の野口青年が、1896年9月19日、医師の資格試験を受験する上京の際に、自ら床柱に刻んだものが今でもそのまま残っています。志を高く持った野口青年の自分の人生をかけた固い決意が、生々しく床柱に刻まれていました。何度見ても心が奮い起こされます。また、【忍耐の書】という題名で『正直は最良の方法である。忍耐は苦い、しかしその実は甘い』という言葉がありました。世のため、人のために、自分の人生を全て捧げて、自分に正直に生きた野口英世氏の「人生訓」とも言えます。こうした旅先での見聞が、6年生の子どもたちのこれからの人生を豊かに光り輝かせてくれるものと確信しています。

修学旅行を終えて今、改めて思うことは、学校で行う教育活動の目的です。その教育活動のめあてに向かい、適切な情報を収集・選択し、自分の頭で納得がいくまで考え、それらを自分の言葉で相手に分かり易く伝える力だと思います。6年生の子どもたちは、今年の修学旅行の事前学習や事後学習で多くのことを学び、体験しました。修学旅行のよさを改めて感じました。ご理解・ご協力をいただいた保護者の皆様に感謝いたします。